

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

テーマ	自分らしく生きる～「ふるさと・環境」「地域産業・暮らし」「社会」を考えることを通して
<p>1 本校のESDでめざすもの</p> <p>(1) ESDのねらい 持続可能な社会づくりの担い手の育成として、生徒が「自分らしく生きる力」を育む教育を行う。</p> <p>(2) ESDで育てたい資質・能力 「自らの身を守り、乗り切る力」「知識を備え、行動する力」「地域の安全に貢献する力」「安全な社会に立て直す力」「安心・安全な社会づくりに貢献する力」の育成</p> <p>(3) 本校ESDの特徴 気仙沼市北東部に位置し、山と海に囲まれた自然豊かな環境にあったが、東日本大震災により学区の大半が壊滅的な被害を受けた。総合的な学習の時間（さくら学習）では、学年単位での学習を行っている。学習を通して、生徒が地域を見つめ、自分の生き方を考えながら、地域でよりよく生きようとする力を育むことを継続してきた。</p> <p>2 今年度のESDの概要</p> <p>(1) 実践の概要 総合的な学習の時間（さくら学習）では、全校縦割り学習と学年単位での学習を行っている。</p>	
全学年	防災学習「避難所設営訓練」「防災マップづくり」、非常時の対応（15時間）
1学年	<p>「ふるさとや環境について考える」（35時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に関する調査や探究の過程を通し、主体的に学ぼうとする態度や学び方を身に付ける。 ・気仙沼の福祉の現状などについての調査や交流活動、表現活動を通して、地域の人々と触れ合い、より深く関わりをもち、郷土を愛する気持ちを育てる。
2学年	<p>「地域の産業や暮らしを考える」（55時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職業に関する調査や体験活動、表現活動を通して、主体的に学ぼうとする態度や学び方を身に付ける。 ・地域での職場体験をすることによって、産業と向き合いながらそれらを支える人々の生活や生き方に触れ、人と関わり、人から学ぶ力を育てる。
3学年	<p>「社会のためにできることを考える」（55時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災教育の観点から課題を選び、調査活動や体験活動、表現活動を通して、主体的に行動する実践的な態度を身に付ける。 ・防災について学習する過程を通して、地域の一員としての自覚をもって、今後の気仙沼の復興など、社会とより意欲的に関わりをもとうという気持ちを育てる。
<p>(2) ESDの課題の解決に向けて、今年度、特に工夫・改善したこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災学習で、初めて避難所設営訓練を行った。 ・各学年の学習では、外部講師による体験的な学習を増やし、生徒の興味・関心を高められるようにした。 	

3 「ポスト ESD としての GAP の推進」に向けての成果と課題

(1) ねらい・目的の視点から

①成果

生徒は体験学習を通して、自ら考え、自分のできることを実践しようという姿勢が見られた。

②課題

体験学習を行っているとき以外の日常生活の中でも、主体的に考え、自分らしさを実践するところまでは引き出せていない。

(2) カリキュラム・マネジメント（指導計画・内容・方法、連携・交流等）の視点から

①成果

国語科での話し合い活動の学習が、体験的な学習の場面での協働学習に生かされた。ESD の学習を通して、生徒が積極的に活動する場面が増えた。

②課題

生徒が主体的に学習する場面がいくつか見られたが、それを有機的に結び付け効果的に機能するところまでのカリキュラムはできていなかった。

(3) アクティブ・ラーニング（主体的・探究的・協動的な学習）の視点から

①成果

体験学習などで目的が明確になると、生徒は主体的に学習に取り組み、自信を深めることができた。

②課題

体験学習等での学びを、生徒自身の毎日の生活にどのように生かしていくのか、その有効な手立てを探る必要がある。

(4) 評価（育てたい資質・能力に対する児童生徒の変容等）の視点から

①成果

体験的活動を取り入れた学習は生徒の資質・能力を高めるのに有効であった。

②課題

地域の人材や学習素材をさらに吟味し、限られた時数の中で有効な体験学習ができるようにカリキュラムを工夫していく必要がある。

4 今後のESDの方向性～21世紀型能力の育成等～

- (1) 「基礎力」「思考力」「実践力」の3つの連携を各教科の学習で意識して取り入れ、それを体験学習等で成果として発揮できるようなカリキュラムを工夫していきたい。
- (2) 地域の人材や学習素材を発掘し、生徒が地域に愛着をもてるような方向性でカリキュラムを組み立て、地域に貢献できる人材を育成できるようにしたい。
- (3) 中学校の教科担任制は、教科を越えて横のつながりが重要と考えるが、教科間の連携がとりにくかった。今年度成果が見られた国語科の実践をモデルにして、横断的な学習等について校内での研修を行っていきたい。

